

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

AA 研共同利用・共同研究課題「東南アジア大陸部地域語彙の類型論的研究」

2020 年度第 3 回研究会（通算第 5 回目）報告書

日時：2021 年 3 月 13 日（土）13:30–17:00

場所：オンライン

使用言語：日本語

主催：基幹研究「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築（LingDy3）」

1. 加藤昌彦（AA 研共同研究員、慶應義塾大学）
「ポー・カレン語の語彙」
2. 富岡裕（AA 研共同研究員、神田外語大学）
「タイ東北部におけるブル語の語彙」
3. 全員
「全体討論」

今回の研究会では 以下の通り 2 名の共同研究員に報告いただいた。

加藤昌彦（AA 研共同研究員、慶應義塾大学）

「ポー・カレン語の語彙」

本発表では、チベット・ビルマ語派カレン語群に属するポー・カレン語の語彙の特徴を論じた。冒頭でポー・カレン語の系統や地理的分布、カレン人の文化的・社会的背景を紹介し、この言語の音韻体系と節構造を解説した上で、語彙のレベルに見られる、次に列挙するような特徴について述べた。(1) 単語の形成法には複合・重複・接辞付加がある。(2) 切断を表す動詞は他の東南アジア地域の諸言語と同様に多い。(3) 洗浄を表す動詞は対象物によって使い分けられる。ビルマ語と同様、少なくとも、服の洗浄を表す動詞、頭を洗う動作を表す動詞、顔を洗う動作を表す動詞、その他の物を洗う動作を表す動詞の 4 つがある。(4) 運搬は、移動を表す動詞の後に保持を表す動詞を置いた動詞連続によって表される。保持を表す動詞は、動詞そのものの意味の中に移動が含まれない。したがって、純粋に「運搬」を表す動詞はポー・カレン語に存在しないと考えられる。(5) 場所は、地点・着点・起点の 3 概念を表すことのできる 1 個の前置詞によって表される。文脈によってはこの前置詞が地点・着点・起点のいずれを表すかが曖昧になり得るため、名詞の後に指示詞を置く等の方法を使って非曖昧化されることがある。(6) 色彩を表す単語は動詞である。「白い」「黒い」「赤い」「黄色い」「緑色の」を表す単語はよく使われるが、「青い」と「茶色い」を表す単語は出現頻度

が低く、対面調査でも出てきにくい。(7) 調理を表す動詞の多くは、「食べる」を表す動詞と同音の第1音節を持つ。「(～を) 木の葉に包んで蒸し焼きにする」という意味の動詞が存在することが特徴的である。(8) 味を表す動詞には「甘い」「塩辛い」「辛い」「酸味のある」「苦い」「渋い」「美味な」の意を表す動詞以外に、V+NあるいはV+Vという語構成を持つ複合動詞がある。(9) 兄弟姉妹の呼称は、基本的に年上であるか年下であるかの観点で使い分けられ、男女の区別をする必要がある場合には、性別を表す形態素を呼称の後に付す。(10) 日食と月食は、「物」を表す名詞を主語位置に置く非人称構文によって表される。「雨が降る」や「暑い」等も同様である。(11) 動詞の他動対応においては、自動述語から他動述語を形成する派生が用いられることが多い。「殺す」「壊す」などを表す表現は、自動詞に使役助詞を付加することにより作られる。一方で、他動詞から自動述語を作る派生も存在する。「変わる」「集まる」「開(あ)く」を表す自動述語は、他動詞に中動態標識を付加することによって作られる。(12) この言語には「好む」を表す動詞が存在しない。「私は豚肉カレーが好きだ」は、文字通りには「私は豚肉カレーを食べると美味だ」を表す分離型動詞連続によって表現される。(13) においを表す動詞が豊富である。本発表では、23個の動詞を挙げた。特に、不快なにおいを表す動詞が多い。(14) 1音節からなる動詞Xがあったとき、その後に1～3音節からなる要素Yを付加した形からなる動詞XYがあり、さらにそのXYがXの意味を強調する意味を表すとき、この動詞XYを「強調語」と呼ぶことにする。ポー・カレン語には強調語が多く、日常会話で多用される。(15) ポー・カレン語には、複合語を形成する2要素を引き離し、引き離された各要素に統語的操作を施すイオン化現象(Yuen Ren Chaoの用語)が対句表現の中に見られる。イオン化現象においては、意味が希薄化して単独では用いられない単語が頻繁に現れる。

富岡裕 (AA 研共同研究員、神田外語大学)

「タイ東北部におけるブル語の語彙」

ブル語はオーストロアジア語族カトウ語派に属する言語である。ラオス中南部を中心に分布しているが、一世紀ほど前にメコン川を渡って移住し、定住したコミュニティがタイ東北部ウボンラーチャターニー県に2ヶ所確認されている。

本発表ではタイ側の集団のうち、ウーンブック (Woen Buek) 村のブル語変種について、共同研究課題の共通調査項目を中心とした語彙、発表者がこれまでの現地調査で収集した語彙のうち、細分化されていると仮定される語彙について、L. Thongkum & Phuengpa (1980) を用いて調査した結果を報告する。

調査した語彙は意味ごとに以下の1～17に分類した：1. 手・足・毛、2. 貸し借り、3. 運搬、4. 色彩語彙、5. 味覚・食感、6. 調理、7. 嗅覚、8. 新旧、9. 温度、10. 洗う、11. 行く・来る、12. あげる・もらう、13. 親族名称、14. 性、15. 落ちる、16. 打つ・叩く・つく、17. 投げる。

何らかの基準で細分化されていると考えられるカテゴリーとその基準には、例えば

2. 貸し借り：急に借りるかどうか、
3. 運搬：使う体の部位や使用する道具とその担ぎ方、
6. 調理：‘roast’について、その対象や加熱方法、
10. 洗う：洗いだりすすいだりする対象、
15. 落ちる：落ち方、落ちる物、
16. 打つ・叩く・つく：何を、どのように、
17. 投げる：投げる物、投げる動作、投げる方向、がみられた。

さらに、4. 色彩語彙では、白や薄い色を表す語彙が複数あるのに対し、青色、水色、桃色は無かった。13. 親族名称ではタイ語とは異なり、ラオス語と同様に‘兄’と‘姉’は区別されている。1. 手・足・毛の/khiw mət/ ‘眉毛’は、発表者が2014年に行った調査ではブル語 /soʔ/ ‘hair’ + タイ語（ラオ語） /khîw (khîw)/の複合語ともみなしうる /soʔ khîw/ という語彙が確認されている。

タイ語やラオ語に比べてかなり細分化されている語彙（運搬、洗う、落ちる、打つ、投げるなど）に共通するのは、狩猟・採集、移動農業に従事し、定住地を持たなかった、かつてのブル族の生活様式に深く関わるという点ではないかと考えられる。この仮説を明らかにするためにも、より様々な語彙について、今後は文献調査だけでなく現地調査も行い慎重に分析していく必要がある。

参考文献

- L. Thongkum, T. & Puengpa, S. (eds.) *A Bru-Thai-English dictionary*. Bangkok: Indigenous Languages of Thailand Research Project, Department of Linguistics, Faculty of Arts, Chulalongkorn University.

(発表要旨は発表者による)